



# 2年学年だより

発行日：令和2年6月30日（火）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

学校長：三浦 昌彦 NO. 2

## 学校生活が再開しました

うっとり梅雨空の中、紫陽花が美しく咲き誇り私達の目を楽しませてくれています。

今年度着任いたしました、副校長の藤森潤子です。ようやく6月1日に学校が再開することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。学校に生徒達の元気な姿が戻り、私ども教職員の喜びもひとしおです！



第一期と名付けた1日からの分散登校初日。生徒の皆さんだけでなく先生達や保護者の皆様も経験したことのない“緊急事態”が明けての学校再開は、誰もが緊張し手探りでスタートでした。全員マスク姿で昇降口にて手指の消毒をし、教室内では感染防止のために市松模様で着席です。話をして良いのかどうかも気を遣い、附属中とは思えないシーンとした教室に、先生達の方がドギマギしていたかもしれません。それでも先生や友達との出会いと、今年度初めての授業に目をキラキラさせている生徒の皆さんのようすを嬉しく思いました。

第二期の15日からは時差通学を続けながらクラス全員での生活が始まりました。この頃にはクラスの仲も温まり、教室からは笑い声が響き始めました。上手に互いを思いやりながら、学活や生徒会活動を元気に推進していく生徒の皆さんの逞しい姿に、先生達の方が勇気を与えられた気持ちです。

EGGでは、「世界を幸せにする第一歩」という大テーマで学習が始まりました。今年、皆さんは何を自分のテーマに選ぶのでしょうか？

附属中の教育理念は、～知性・自主自立・創造～。さあ生徒の皆さん、安心・安全な新しい附属中学校の生活を、共に創っていきましょう！

### 学校再開後の生徒の様子と、学校の対応

6月1日より分散登校という形から再開となり、6月後半からは一斉登校となりました。生徒たちの中には「早く友達に会いたい」「学校に行きたい」と再開を心待ちにしていた生徒も多かったのではないかと思います。しかし3か月という長きにわたる臨時休業からやっと学校が再開されたのは、梅雨の季節に入ろうかというムシムシと暑く、熱中症も心配される頃からでした。あまりにも長かった休業期間で、体力も多少衰えたとい生徒がいましたが、久しぶりに40人のクラスでの授業に疲れ、中には気分が悪くなる生徒もいました。

保護者の皆様にも毎日ご協力いただいておりますが、学校でも生徒の「健康観察」を重視し、登校中の生徒の様子と体温測定を忘れた生徒への検温を、毎日職員が“くすの木広場”で行っております。また生徒が使用する教室や学校施設は全て、全職員で毎日消毒作業を行っております。

生徒たちは手洗いや消毒、マスクの着用、換気、ゴミの持ち帰り等、自分たちができる感染予防対策に取り組んでおり、一人ひとりの意識の高さには本当に感心させられます。

いつかこれまでと同様の日常は戻ってきます。その日まで、今私たちにできることを前向きに取り組んでいきたいと思います。

養護教諭 山崎涼子

## 学校再開 そろりそろりの6月

分散登校を2週間、時差通学を2週間行ってきました。お互いに気を遣いながら新しい生活様式で登下校・生活しています。登校時、消毒をするのも、熱を測ってくるのも当たり前になりました。ご家庭でのご協力に感謝いたします。

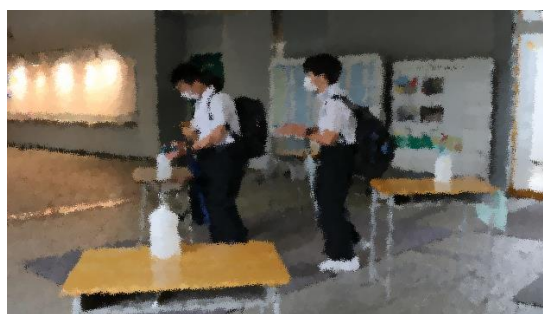


梅雨のこの時期、傘もあり、荷物も増えて大変です。バスが混んでしまわないように、頑張って歩いている人も多いです。

教室に入ると、クラスの係の仕事などをして、少しずつ2年生のクラスに馴染んできている人もいますが、まだまだ慣れない、と思っている人もいるかと思います。周りを見て、ちょっと声をかけてみる、一緒に〇〇やろう、と誘ってみる、声をかけてくれた人にとってみる、お互いのいいところを見つける等々、いつもの4月にしていることを少し意識してみるとお互いにすごしやすくなるかと思います。

昨年の今頃は、すでにPAAや体育祭、合唱コンクールが終わり、舞台・展示の部に向けて取り組みを始めていましたね。今年は、やっと委員会が始まり、9月の新しい企画の南高祭に向けて動き始めるところです。生徒会メンバーも、今まで通りではない新しい動きで、生徒総会の準備をしたり、開催をしたりしなくてははいけません。みんなの見えないところで準備や活動しているメンバーに感謝です。

7月からは、平常の時間に移行しますが、十分気を付けて生活していきましょう。



## EGG ゼミ I期

2学年の EGG ゼミは一年間を3期に分けて活動していきます。I期（6月～10月）の目標は「一つの物事について、さまざまな視点から考える力を鍛え、伸ばしていくこと」です。2年生初EGGは、『この世界の片隅に』を南高ホールで3回に分けて観ました。（座席を空けて座りました。）

「印象に残ったこと」「映画を通して思ったこと」「考えたこと」などを自由に書いてもらいましたので紹介します。



今片腕を無くしたら大けがの大けがだけど、この時代は生きていられただけよかったというくらいで生きているのがあたり前じゃなかったことがすごく心に残った。夜も安心して眠れず、食べ物もなかなか手に入らない生活は私には無理だと思う。今までみたことのある戦時中の映画は軍や政府の中を描いたもので、今回のような普通の人の生活を描いているものは初めてだった。私も普通の人だから、自分と比較できることや思うことが多かった。映画でみるだけでも衝撃的だったから実際はもっと恐ろしかったと思うと改めて絶対に繰り返してはいけないことだと感じた。（1組 女子）

- ・終戦のラジオを聞いた後のすすさんのセリフが心に残っている。「いろんな物を犠牲にしてきたのだから、最後までやり切ってほしい。」と思っていたのだと思う。国としては、犠牲者をこれ以上増やしたくないという善意だったのではないかな。しかし、私が国のリーダーだとしても、判断は難しかったと思う。
- ・すすさんが右手を見つめながら、右手が今までやってきたことを思い出しているシーンも印象的だ。あんなに大好きだった絵がかけなくなってしまった。私は両手があるが戦時中は、たくさんの方が手や足をなくしていたと思うと、胸が痛くなった。
- ・最後の被爆した親子が歩くシーンでは、母親の偉大さを感じた。爆発した瞬間は描かれていないが、たぶん母親は死にもものぐるいで子供を守ったのだと思う。そして、最後の力をふりしぼって安全な所までつれていっている。はえが集まっているところは少し怖かったが、目をそむけてはいけないことだと思った。（2組 女子）

ストーリーについて。序盤→中盤までの平凡な日常の中でも戦争中はこんなことがあったんだよー、とか戦争中はこうして切りつめていたんだよーといったことを伝えていて、しっかりとリアリティがあった。途中で晴美さんが亡くなってしまったことも急展開というか、意外性があり、より悲惨さを物語っていた。それから主人公の右手が無くなったり、家が燃えかけたりして、一転して悲惨さが際立った。それでも終戦のときに主人公が悔しがっているのを観ると、何だかやるせなさに似た感情が湧き上がった。

考えたこと。戦時中の事象や人々の考え方については、自分の知識と相違なく安心した。それでも終戦を悔しがっていた人々の描写は胸にくるものがあった。例えば「少年H」などでは人々は戦争が終わりホッとしていたと書いてあったが、決してそんなことはなかった。何故か、もしかしたら、戦時中でさえも、



「本土決戦上等！」と叫ぶような過激派は少なかったのかもしれない。しかし、戦争が終わり、今までの苦虫を噛みつぶしたかのような日々が水泡に帰したことの実感が得られたとき、初めて人々は本気で悔しかったのかもしれない。また一つ、自分の戦争観が変わりそうな気がしました。(3組 男子)



私は、この映画のキレイなイラストがとても気に入りました。昔のたいへんでありながらも、のどかな日本が淡く、キレイな色使いで表現されていて感動しました。防空ごうの中での空しゅうのしょうげきのスゴさもリアルに伝わってきて怖かったです。地震より大きく、地球が破壊されると思うぐらいゆれ、振動でびっくりしました。戦争の時代では、ついさっきまで、となりで歩いていた人も一瞬でいなくなってしまう

ことがあったり、大切な家族や人が目の前で亡くなっていたり、見つからなかったり、誰にもみとられずに死んでいってしまうことが当たり前のようにおこってしまっていたことにおどろきました。1年生の時に習った、「大人になれなかった弟たちに・・・」の「僕」の気持ちがとてもよく分かる映画でした。でも映画の中で、戦争の悲惨さだけではなく、人と人とのつながり、人と人との出会いのすばらしさも伝わってくる物語でもありました。さすが、最後の方で題名にもあるように、「ありがとう。この世界の片隅に、うちを見つけてくれて。」というセリフを言うシーンが心に残っていました。

初めは、題名には、世界の片隅で、人間は、大きな世界があるというのに、ちっぽけな戦争をして、多くの人を犠牲にして、幸せをうばっていた。そんなことは二度と起きてはいけない！という意味がこめられていたのかなと考えていたが、すすさんのセリフから、この物語では、戦争なんかよりも、人同士の関わり合い、人を大切に作る気持ち、運命、などを主に伝えているのだと考えるようになりました。そういえば、映画のほとんどは、とつぎ先の家族同士のいざこざ、昔の友人、昔出会った人との再会、空しゅうで母をなくした女の子とすすの出会い、地域の人達とのふれあいなどが描かれていたなと思い返しました。この話は、本当に良かったです。(4組 女子)

ものの見方や考え方を広げた上で、もう一度自分ごととして考え、最終的には自分自身の意見を持つ力を付けていきましょう。これからのEGGが楽しみです。

事務より

①学校配当予算報告

令和元年度 予算決算報告書

単位：円

費目	配当額	決算額	残額	備考(具体例)
学校運営振興費	13,120,400	13,070,848	49,552	備品、消耗品等

※残額は横浜市へ戻入されています。

令和2年度 予算執行計画書

単位：円

費目	配当額	執行予定額	残額	備考(具体例)
学校運営振興費	13,888,400	13,888,400	0	備品、消耗品等

※詳しい費目等はホームページでご覧になれます。

②就学援助について

・2月下旬まで随時受付しています。コロナによる家計が急変した世帯への特別審査も行っています。